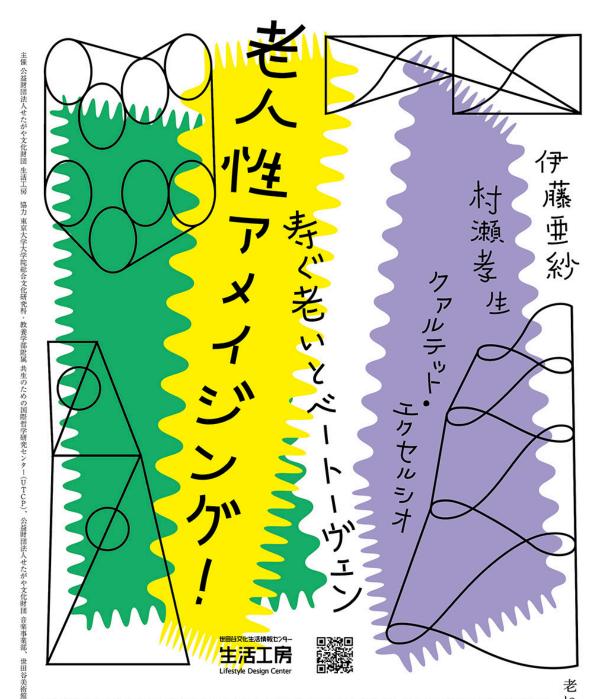
老いるってこんなに面白い。老いることを積極的に捉え直す2日間



寿ぐ老い 2024年2月18日(日) 11:30-18:30 講師_伊藤亜紗、村瀬孝生 東京大学 駒場 I キャンパス 21 KOMCEE West BIF レクチャーホール

老人性アメイジングとベートーヴェン 2024年2月25日(日) 13:00-17:30 講師_村瀬孝生 演奏_クァルテット・エクセルシオ 世田谷美術館 講堂

画像 1: 「老人性アメイジング! 寿ぐ老いとベートーヴェン」フライヤー

[主催] 公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

[協力」東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属共生のための国際哲学研究センター(UTCP)、 公益財団法人せたがや文化財団 音楽事業部、世田谷美術館

[後援] 世田谷区、世田谷区教育委員会

世間以此生活情報センター 生活工房 Lifestyle Design Center

るっ

てこんなに

面

白



Outline

タイトル 老人性アメイジング!寿ぐ老いとベートーヴェン

① 寿ぐ老い [小噺+講演+鼎談+対話]

日時 2024 年 2 月 18 日[日] 11:30-18:30

講師 伊藤亜紗 [美学者]、村瀬孝生 [「宅老所よりあい」ほか統括所長]

進行 山内泰 [一般社団法人 大牟田未来共創センター理事]

会場 東京大学 駒場 I キャンパス 21 KOMCEE West B1F レクチャーホール [〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1]

交通 京王井の頭線「駒場東大前駅」東口よりすぐ

② 老人性アメイジングとベートーヴェン [演奏&トーク+小噺+コンサート]

日時 2024 年 2 月 25 日 [日] 13:00-17:30

講師 村瀬孝生 [「宅老所よりあい」ほか統括所長]

演奏 クァルテット・エクセルシオ

進行 山内泰 [一般社団法人 大牟田未来共創センター理事]

会場 世田谷美術館 講堂 [〒157-0075 東京都世田谷区砧公園 1-2]

交通 東急田園都市線「用賀」駅下車徒歩 17 分、または、美術館行バスで「美術館」下車徒歩 3 分 ※その他のルートは、世田谷美術館 WEB サイトをご確認ください。

定員 各日 120 名 [申込先着]

申込 2023 年 12 月 25 日 [月] 10:00 より生活工房 WEB 申込フォームにて

※後日 YouTube での一部公開を前提に撮影が入ります。※パスマーケットによる事前決済。

主催 公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

協力 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属共生のための国際哲学研究センター(UTCP)、 公益財団法人せたがや文化財団 音楽事業部、世田谷美術館

後援 世田谷区、世田谷区教育委員会



Press

画像のご使用について

- ▶本リリース掲載の画像の貸出をご希望の方は、①媒体名 ②御社名 ③ご担当者名 ④ご連絡先 ⑤ご希望の画像番号を明記の上下記広報担当まで E メールでお申し込みください。
- ▶使用後のデータは破棄してください。
- ▶お手数ですが、基本情報確認のため掲載前に一度原稿をお送りください。

本事業についてのお問い合わせ

公益財団法人せたがや文化財団 生活工房 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 4-1-1 キャロットタワー Tel: 03-5432-1543 Fax: 03-5432-1559 Mail: info@setagaya-ldc.net WEB: www.setagaya-ldc.net 広報担当:石山那緒子 事業担当:中村幸、齋藤直子



Point

▶老いのパラダイムシフト

自らの体の衰えや親の介護など、誰もが「老い」について不安を抱える超高齢化社会。

理性的・自律的な人間をモデルとして、それに合致することが難しくなった人々を逸脱や衰退と捉え、

治療や矯正でいかに〈正常・普通〉に戻すかを重視する現代社会は行き詰まりをみせ、転換を迫られています。

本企画では、既存の人間観への拘りを解きほぐし、より包括的で自由な人間像を模索します。

▶老いるってこんなに面白い

NHKの番組で紹介され「こんな老人ホームなら入りたい! | と大反響をよんだ「宅老所よりあい | の施設長:村瀬孝生さんの老い小噺、 障害を持つ方や介護・介助に携わる人々の声から新しい身体・ケア論を説く美学者: 伊藤亜紗さんの講演、

国内外の第一線で活躍するクァルテット・エクセルシオによるベートーヴェンの晩年作品のコンサートなど、

ネガティブに捉えられがちな「老い」のイメージを多様なコンテンツから積極的に捉え直すアメイジングな2日間。

▶老いて自由を取り戻す

ベートーヴェンの晩年様式から紐解く「老い」の可能性

村瀬孝生さんによれば、認知症の方は、既成の時間や空間の認知から解放されて生身の実感から世界を捉えるといいます。 それは、幼少期には誰もが体験した「概念から解放された世界」を生き直すことでもあります。

日常的な概念や感覚から自由な表現が高く評価されてきた音楽世界で、

天才作曲家ベートーヴェンが、完成された傑作を経て晩年に迎えた創作の境地とはどんなものだったのか。

村瀬孝生さんが介護現場で出会ってきた概念から解放された世界を生きる自由な人間像と、ベートーヴェンが晩年に作曲した 後期弦楽四重奏曲の魅力を紐解きながら、誰にでもやってくる「老い」に来るべき新しい人間像を探ります。



Summary

超高齢化社会の現代。身体の衰えや記憶力の低下など「老い」を迎えることによって、それまでの自分が失われてしまう のではないかと不安に思う人もいるかもしれません。例えば、現代社会でネガティブに捉えられがちな認知症は、時間と空 間の見当がつかなくなる方も多いといわれています。

一人一人の思いに寄り添う先進的なケアで全国的に注目を集める介護施設「宅老所よりあい」の村瀬孝生さんは、老いの 世界を生きるお年寄りたちの真面目で滑稽な様子を、豊かなものとして積極的に捉え直す意味を込めて「老人性アメイジ ング | という言葉を提唱しました。それは幼少期には誰しも体験した 「概念から解放された世界 | を再び生きることでもあ り、とくに芸術や音楽などの領域においては、日常的な概念や感覚から自由な表現が高く評価されてきました。

本企画の1回目では、「老いる|ことで見えてくる世界の別様の捉え方について、介護のユーモラスな実例を交えたゲス トの講演や参加者同士の対話をとおして探求し、既存の「老い」の概念を更新することを目指します。2回目は、作曲家ベー トーヴェンが晩年に迎えた音楽の境地とはどんなものだったのか、クァルテット・エクセルシオによる弦楽四重奏曲の生 演奏とゲストトークを交えながら作品の魅力に迫り、「老い」がもたらす豊かで自由な人間像を探ります。

[Short.ver]

ユーモア溢れる介護トークやベートーヴェンが晩年に作曲した弦楽四重奏曲の魅力を紐解きながら、 「老い」がもたらす豊かで自由な人間像を探り、ネガティブに捉えられがちな「老い」の概念を積極的に更新するイベント。



Events

寿ぐ老い

2月18日[8] 11:30-18:30

東京大学 駒場 I キャンパス 21 KOMCEE West B1F レクチャーホール

「こんな老人ホームなら入りたい!」と全国から注目を集めている「宅老所 よりあい」の施設長: 村瀬孝生 さんによるユーモア溢れる老い小噺。障害を持つ方々や介護・介助に携わる人々の声から新しい身体論・ケア論を説く美学者: 伊藤亜紗さんの講演など。 ネガディブに捉えられがちな老いの概念を更新する1日。

▶11:30-13:00 <mark>小噺</mark> 「生きること」「死ぬこと」村瀬孝生

13:00-14:30 昼休憩

▶14:30-16:00 <mark>鼎談</mark> 伊藤亜紗×村瀬孝生×山内泰

▶16:00-17:00 <mark>講演</mark> 「老いと芸術」伊藤亜紗

17:00-17:30 休憩

▶14:30-16:00 <mark>鼎談</mark> 伊藤亜紗×村瀬孝生×山内泰

※各項目の合間に参加者同士による対話時間があります。

老人性アメイジングとベートーヴェン

2月25日[8] 13:00-17:30

世田谷美術館 講堂

ベートーヴェンが晩年に迎えた音楽の境地とは?国内外の第一線で活躍するクァルテット・エクセルシオの生演奏と、先進的なケアで大きな注目を集める「宅老所よりあい」施設長の村瀬孝生さんのトークを交えながら作品の魅力を解説し、「老い」がもたらす豊かで自由な人間像を探ります。

▶13:00-14:00 <mark>トーク</mark>「マッチョ・ベートーヴェン&時々近代人」

山内泰×村瀬孝生×大友肇 [クァルテット・エクセルシオ]

▶14:00-14:30 小噺 「老人性アメイジング!」村瀬孝生

14:30-15:00 休憩

▶15:00-16:00 <mark>演奏&トーク</mark>「アメイジング・ベートーヴェン」

クァルテット・エクセルシオ×山内泰×村瀬孝生

▶16:00-17:30 <mark>コンサート</mark> 「ベートーヴェン後期作品」

クァルテット・エクセルシオ



Profile

講師



画像 2: 伊藤亜紗



画像 3:村瀬孝生

伊藤亜紗 Ito Asa

美学者、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授、未来の人類研究センター長。主な著書 に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』(光文社新書)、『どもる体』(医学書院)、『手 の倫理』、『ヴァレリー 芸術と身体の哲学』(共に講談社)、『きみの体は何者か一なぜ思い通り にならないのか?』(筑摩書房)、『体はゆくできるを科学する〈テクノロジー×身体〉』(文藝 春秋)他。共著に『「利他」とは何か』(集英社新書)、村瀬孝生氏との共著に『ぼけと利他』(ミ シマ社)。『記憶する体』(春秋社)で第42回サントリー学芸賞受賞。

https://asaito.com

村瀬孝生 Murase Takao

「宅老所よりあい」「第 2 宅老所よりあい」「特別養護老人ホーム よりあいの森」の統括所長。 1995年より高齢者が住み慣れた自宅や地域で暮らし続けるためのケアを実践する老人介護施 設の草分け「宅老所よりあい」(福岡市)に関わる。時間割やノルマを設けず"お年寄りの思 いに沿う介護"の実践は、NHKで密着番組が放送されるなど多くの注目を集めており、ユーモ ア溢れる語りで各地の講演会で会場を沸かせている。主な著書に『シンクロと自由』(医学書院)、 『ぼけてもいいよ』(西日本新聞社)、『おばあちゃんが、ぼけた。』(新曜社)他。

http://yoriainomori.com

演奏



画像 4: クァルテット・エクセルシオ

クァルテット・エクセルシオ Quartet Excelsion

西野ゆか (Vn.1)、北見春菜 (Vn.2)、吉田有紀子 (Va)、大友肇 (Vc)

1994年結成。年間 60 公演以上を行う日本では稀有な常設の弦楽四重奏団。実力・名声ともに 日本の弦楽四重奏団の第一線で活躍し、室内楽シーンをリード。日本人団体として本邦初の ベートーヴェン弦楽四重奏曲録音全集を完結させ、高い評価を得ている。2016年サントリー ホールにてベートーヴェンの弦楽四重奏全16曲チクルスを日本団体として初演奏。第2回大 阪国際室内楽コンクール弦楽四重奏部門第2位、第5回パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏 コンクール最高位、第19回新日鉄音楽賞「フレッシュアーティスト賞」、第16回ホテルオー クラ音楽賞など受賞歴多数。

http://www.quartet-excelsior.jp

進行



画像 5:山内泰

山内泰 Yamauchi Yutaka

NPO 法人ドネルモ 代表理事、(一社) 大牟田未来共創センター理事、(株) ふくしごと取締役、 東京大学先端科学技術研究センター社会包摂システム分野特任研究員。美学(芸術哲学)研究 に従事した後、福岡市および認知症ケアで知られる大牟田市などを拠点に、超高齢社会の諸 問題を生み出す近代的な価値観を捉えなおし、これからの人間観や社会観に適った地域社会 を行政や企業と共創するまちづくりの仕事に携わる。主な雑誌掲載に「老人性アメイジング! それぞれのリアリティの可笑しみ」(「精神看護」23巻5号、医学書院)など。

https://donnerlemot.com

https://poniponi.or.jp